

2020年3月20日付 韓国環境部プレスリリース

京畿道、江原道の野生イノシシから ASF ウイルス検出 (野生イノシシ 391-406 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=403JS-dqyzSSxYIPMe+TS7cX.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1355960&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月18日に江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョンゲン)、京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゲン)および坡州市(パジュシ)広域フェンス内で発見されたイノシシ死体16個体からASFウイルスが検出されたと3月19日明らかにした。

□国立環境科学院は3月19日死体16個体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡(ファチョンゲン)160件、漣川郡(ヨンチョンゲン)150件、坡州市(パジュシ)74件、鉄原郡(チョルウォンゲン)22件、合計406件のイノシシASFが確診なった。

○野生イノシシASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「強力な搜索と住民からの通報により、感染死体が継続して発見されている。住民の方々は死体を発見した場合は、触ったり近寄ったりせず、速やかに通報してほしい」述べた。

以上